

中高生年代向け施設の考え方について

1 背景

子どもを取り巻く現状として、社会・経済構造の変化により孤独・孤立への不安や児童虐待、不登校、いじめ、自殺する子どもの数の増加など様々な課題が複雑かつ複合化しているとともに、地域のつながりの希薄化や少子化の進展により、子ども同士が遊び・育ち・学び合う機会や居場所を持つことが困難となっている。とりわけ居場所がないことは子どもの孤独・孤立の問題と深く関係しており、価値観の多様化も踏まえた子どもの居場所が求められている。

子どもの居場所に関する国の動向としては、こども家庭庁が令和5年12月に「こどもの居場所づくりに関する指針」を策定し、全ての子どもが、安全・安心に過ごせる多くの居場所を持ちながら、様々な学びや、社会で生き抜く力を得るための糧となる多様な体験活動の機会に接することができ、自己肯定感や自己有用感を高め、子どもが本来持っている主体性や創造力を十分に発揮して社会で活躍していけるように、居場所づくりを実現することとしている。

2 現状・課題

- 区は、子どもの居場所の重要性を踏まえ、児童館の機能強化を円滑に進めるとともに、計画的な施設更新等を実現するため、「中野区児童館運営・整備推進計画」を令和6年3月に策定し、取組を進めているところである。
- 児童館は0歳から18歳までの子どもと保護者を対象とした地域の身近な居場所として機能しているが、現状の施設規模・設備等においては、中高生年代のニーズに対応した機能としては限定的である。
- 今後、中高生年代を対象とした事業を強化した児童館を区内1か所に配置予定であるが、中高生年代の活動圏域などを踏まえ、さらなる中高生年代向け施設の配置を求める声がある。
- 令和3年10月に策定した「中野区区有施設整備計画」において、産業振興センター跡施設を転用して中高生年代の交流・活動支援の場を整備していくこととしている。

3 中高生年代向け施設の基本的な考え方

(1) 機能・役割

- ① 中高生年代のニーズに対応した居場所・遊び場機能
 - ・中高生年代にとって安全・安心な居場所
 - ・中高生年代の活動実態を考慮した開館時間の設定
 - ・おしゃべりや交流、学習、自由飲食などが可能なロビー機能
 - ・軽運動やダンス、音楽活動などが可能な設備
- ② 中高生年代の交流と社会参加の促進
 - ・中高生年代の交流や仲間づくりを促進するための事業
 - ・子ども自身が施設運営に参画し、地域団体との交流や地域イベントの企画実施などの子どもの自立を促す仕組みを反映した運営
 - ・日常的な関わりの中での相談支援

(2) 配置

- ① 中高生機能強化型児童館
 - ・0歳から18歳までの子どもと保護者を対象にした児童厚生施設
 - ・若宮児童館の施設更新により設置するほか、今後区南部の児童館の施設更新に合わせて配置することを検討していく。
- ② 中高生年代向け拠点施設
 - ・中高生年代の利用に特化した施設として整備予定

(3) 検討の方向性

- 中高生年代向け施設の整備に当たっては、当事者である中高生年代の意見を聴き、ニーズを踏まえた上で、検討を進めていく。
- 中高生年代向け施設の整備及び供用開始には相当期間を要するため、区有施設等を活用した中高生年代の居場所事業を検討・実施していく。